日本未記録のヒメハマキ8種について

川 辺 湛

東京都足立区千住2—11 潤徳学園

Notes on eight unrecorded speeies of the Olethreutinae from Japan (Tortricidae)

ATSUSHI KAWABE

私は，渡辺徳氏（仙台市）より屋久島産の莫大なハマキガ類の標本を検討する機会を与えられた．この資料は同氏が1971年8月から1973年3月にかけて，殆んど毎月屋久島に渡島され，精力的に調査採集されたものである．多くの新知見を得たが，ここではその中の8種の日本未記録種について，簡単な記載と写真を付して紹介した．3種は本州や四国にも分布する種である．

なお，貴重な標本の検討を委ねて頂いた渡辺徳氏，*Spilonota algosa* Meyrick に関する貴重な御助言と資料を御提供下さった森内茂博士及び標本を御恵与下さった佐藤力夫，柴田泰利，精野昭夫，豊嶋弘の諸氏に心からのお礼を申し上げる．

Spilonota algosa Meyrick マダラスキバヒメハマキ（新称）(Fig. 1)

Spilonota algosa Meyrick, 1912, Journ. Bombay Nat. Hist. Soc., 21 : 854 ; Diakonoff, 1950, Bull. Brit. Mus. (Nat. Hist.) Ent., 1(4) : 284 ; Clarke, 1958, Meyrick Catalogue, 3 : 583, pl. 290 figs. 1, 1a (♂-genitalia).

前翅長：6～9 mm. 頭部及び触角は黄褐色．下唇鬚は暗褐色で，中節のやや中央に斜走する白色帯がある．末節は細長く，個体により濃淡がある．また下唇鬚の内側は白色を呈する．胸・腹部は黒褐色．

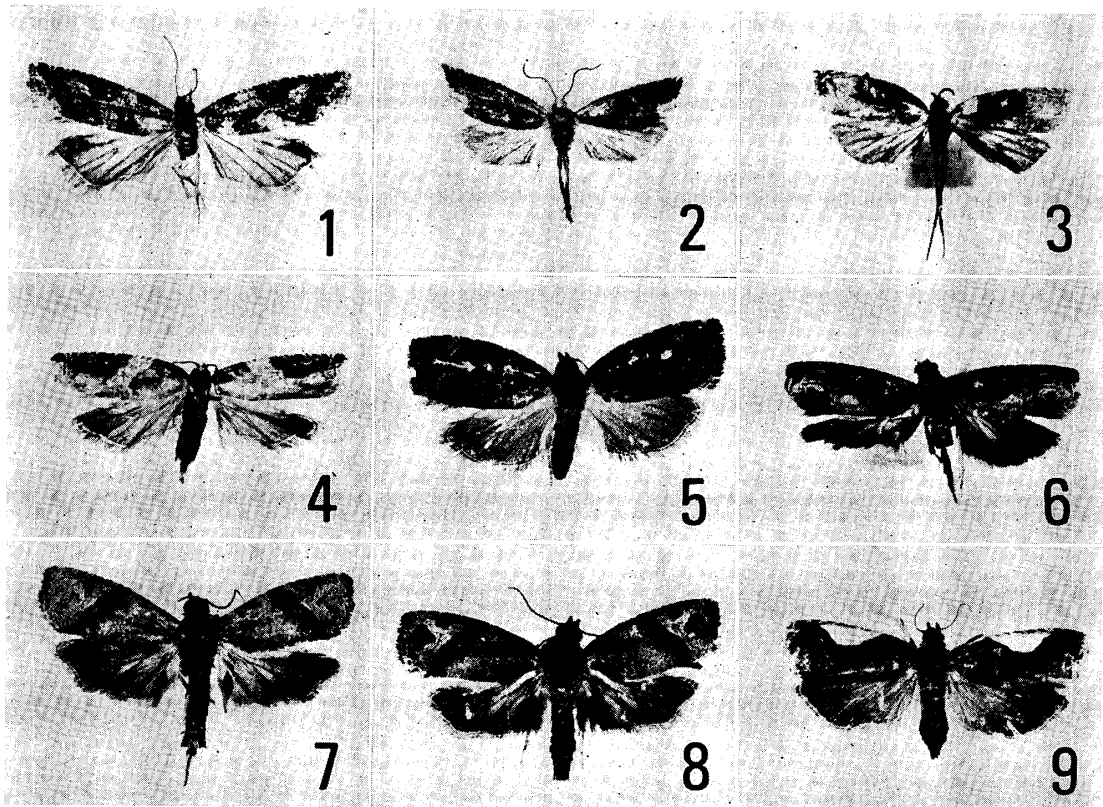
前翅は灰白色で，黄緑色を加味する．数個の暗褐色紋を散在する．翅頂は短かく突出し，黒褐色．縁毛は地色と同じである．後翅は淡い灰褐色で半透明，翅頂及び外縁部はより濃い．翅脈は暗褐色を呈する．縁毛は地色と同色．

交尾器：Uncus は小さいがよく発達し，先端中央で深く割れる．明瞭な socius を有する．Valva の頸部は細く，先端は広くなる．Cucullus の後角には1本の太く短い刺がある．Aedoeagus は細長く単純．Sterigma は典型的なカップ型で，中央でややくぼむがむしろ単純．Ductus bursae は骨化し，signa は角状で2本ある．

所検標本：Yakushima Is.-Akio-dake, 3♂, 4♀, 9 III 1973; 2♀, 30 III 1972; Takabanyama, 2♂, 8 X 1972; Issô, 2♀, 7 III 1973; Miyanoura, 1♂, 1♀, 23 III 1973; Kusukawa, 1♀, 24 III 1972; Kurio, 1♂, 10 X 1972 (T. Watanabe leg).; Miyanoura, 1♀, 25—27 III 1971. (A. Seino); 1♂, 2 IV 1971 (R. Sato); Kurio, 2♀, 28—30 III 1971 (R. Sato). Kasugayama, Nara Pref., 1♂, 2♀, 5 IV 1956; 15♂, 22♀, 14 IV 1956; 2♀, 4 V 1956 (S. Moriuti leg.).

分布：日本（本州，屋久島），台湾，アッサム．

検討した標本は Clarke (1958) の図説に一致したので本種と決定した．その後，森内茂博士が奈良県春日山で得た標本を大英博物館のタイプと比較され本種と決定されている種と，屋久島のものとは同種であるとの御教示を得た．

また，同博士によると，本種は一色博士のコレクション中にも台湾産の標本が若干あったという．春日山では極めて普通にみられ，標本の状態から成虫越冬だろうと推定されている．屋久島でも殆んどの個体が3月と10月にと

Figs. 1—9. Olethreutinae: (1) *Spilonota algosa* Meyrick (♀); (2) *Eucosma scutiformis* Meyrick (♂); (3) *Eucosma cyanopsia* Meyrick (♂); (4) *Rhopobota symbolias* (Meyrick) (♀); (5) *Gatesclarkeana idea* Diakonoff (♂); (6) *Rhodacra pyrrhocrossa* (Meyrick) (♂); (7—8) *Sorolopha sphaerocopa* (Meyrick) (♂); (9) *Statherotoxys hedraea* (Meyrick) (♀).

れている．本種は本州西南部から台湾，中国，アッサムにかけて広く分布する種と考えられる．

Eucosma scutiformis Meyrick アカスソモンヒメハマキ（新称）(Fig. 2)

Eucosma scutiformis Meyrick, 1931, in Caradja, Bull. Sect. Sci. Acad. roum., 14: 64; Clarke, 1958, Meyrick Catalogue, 3: 387, pl. 192 figs. 3. 3a (♂-genitalia).

前翅長：6～9 mm. 頭部及び下唇鬚はうすい褐色を加味した白色で，触角は褐色を呈する．下唇鬚の中節は雑な鱗毛によって拡大され，末節は短かく，中節の鱗毛で包まれる個体もある．胸部はやや赤色を加味した灰褐色で，腹部も同色だが末端部は淡い．

前翅は灰褐色を呈するが，前縁中央から翅頂及び外縁部上方にかけては橙赤色を呈し，中央から後縁にかけては灰赤色を加味して濃い．後角部は白色を呈し，黒細線を有する．縁毛は同色．後翅はうすい黄褐色を呈し，縁毛はより淡い．

交尾器：Uncus は丸く，明瞭な socius を有する．Valva はむしろ細く，cucullus は三角形を呈する．Cornuti は多数の刺からなる．Colliculum は単純な筒状で，signa は角状で大小2本ある．

所検標本：Yakushima Is. -Akiko-dake, 1♂, 4 X 1972 (T. Watanabe leg.). Mt. Zôzu, Kagawa Pref., 1♀, 5 IX 1963 (H. Toshima leg.). Kiyosato, Yamanashi Pref., 2♀, 21 VIII 1969 (A. Kawabe leg.). Tôkkata, Miyagi Pref., 1♀, 12 IX 1971 (T. Watanabe leg.).

分布：日本（本州，四国，屋久島），中国.

検討した標本が Clarke (1958) の図説に一致することから，一応本種として決定した．交尾器の形態がむしろ

単純なグループだけに，最終的にはタイプとの比較の上での決定が必要と考える．所検標本の産地からみて，本邦には広く分布する種と思われる．

Eucosma cyanopsis Meyrick コモトグロヒメハマキ（新称）(Fig. 3)

Eucosma cyanopsis Meyrick, 1912, Journ. Bombay Nat. Hist. Soc, 21: 866; Clarke, 1958, Meyrick Catalogue, **3**: 360, pl. 179 figs. 1, 1a, 1b, 2, 2a, 2b (♂-genitalia).

前翅長：6 mm. 頭部，触角及び胸部は黒褐色．前翅は淡灰褐色を呈するが，淡い紫色を加味する所もある．基部から前縁中央にかけて顕徴な黒色斑がある．後翅はうすい灰褐色．

交尾器：Uncus は短かく，先端は広くくぼむ．明瞭な socius を有する．Valva の頸部は細く，sacculus にそって長毛を密生する．Cucullus は太く，幅広い．Aedoeagus はむしろ太く，長い．Cornuti は多数の短い刺からなる．

所検標本：Yakushima Is. —Takabanyama 1♂, 8 X 1972 (T. Watanabe leg.).

分布：日本（屋久島），アッサム，ジャワ．

触角等の破損した上記の1雄を検討したが，表徴及び交尾器の形態は Clarke (1958) の図説に一致した．表徴等に特徴があり識別は容易である．

Rhopobota symbolias (Meyrick), comb. n. マダラカギバヒメハマキ（新称）(Fig. 4)

Acrolita symbolias Meyrick, 1912, Jonrn. Bombay Nat. Hist. Soc. 21: 857; Clarke, 1958, Meyrick Catalogue, **3**: 283, pl. 140 figs. 1, 1a (♂-genitalia).

前翅長：6～7 mm. 頭部及び下唇鬚は灰白色で，後者は褐色鱗毛を混在する．触角は褐色，胸・腹部は灰褐色で，黒褐色を加味する．前翅は灰色で，基帯は淡い褐色，中帯の下半部は個体により消失することもあり，むしろ翅頂に分枝する帯が明瞭である．翅頂は鎌形を呈し，後翅は淡い灰色で，縁毛も同色である．

交尾器：Uncus は2分し，非常に短かい．Socius は細長く，腕に毛を密生する．Valva の形状は *R. naevana* Hübner に似る．Aedoeagus は太く，短かい．Sterigma は小さく，浅いカップ状を呈するが，ostium の背面に1対の突起を有する．Ductus bursae は短かく，corpus bursae には大きな馬蹄形の骨片と，むしろ小さな2本の signa がある．

所検標本：Kagawa Pref.-Mt. Ôtaki, 1♂, 19 V 1973; Okushioiri, 3♂, 5♀, 2 V 1973 (H. Toshima leg.). Yakushima Is.-Aiko-dake, 2♂, 2♀, 9 III 1973; Kurio, 5♀, 3 III 1973; 1♂, 4 III 1973; Issô, 2♂, 1♀, 7 III 1973 (T. Watanabw leg.).

分布：日本（四国，屋久島），アッサム．

表徴及び雄交尾器の形態が Clarke (1958) の図説と一致するので，本種として扱った．また，,交尾器及び脈相は *Acroclita* 属より *Rhopobota* 属の特徴を示すので，新しく後者に移行した．

Gatesclarkeana idea Diakonoff. シロテンアカマダラヒメハマキ（新称）(Fig. 5)

Gatesclarkeana idea Diakonoff, 1973, Zool. Mon. Rijksm. Nat. Hist., 1: 8—9, figs. 2, 11, 14, 16 (♂♀-genitalia).

前翅長：7 mm 内外．頭部及び触角は暗褐色で，やや赤色を加味する．下唇鬚は赤褐色で，中節には黒色帯がある．胸部は暗褐色で赤褐色や黄褐色の鱗毛を加える．腹部は灰褐色，末端部はやや濃い．雄の後脚脛節は毛を密生して太くなる．

前翅は黄褐色で，橙赤色及び紫色を加える．基帯，中帯，外帯は暗褐色で細く，不規則，不明瞭である．中帯の半ばよりやや上方に白色点がある．後翅は灰褐色である．

交尾器：雌雄ともに特異な形状を呈する．雄では vinculum や sacculus がよく発達し，左右不相称で，特に sacculus は valva の基部で隆起し，刺を有する円形または楕円形の突起を形成する．雌では signum や sterigma に特徴がある．

所検標本：Yakushima Is.-Takabanyama, 2♀ (4exs.), 9 IX 1972; 3♂ (25exs.), 8 X 1972; Nakama-shichigo-dake, 2♂, 11 X 1972; Shiratani, (1ex.), 4 VIII 1972; Kamikawa-rindo, (1ex.), 12 IX 1972; Nagata, 2♂ (3exs.), 15—16 VI 1972; (4exs.), 5—6 X 1972; Onoaida, (2exs.), 7 X 1972; Kusukawa, 1♀, 13 X 1972; Kurio, (5exs.), 7—8 VIII 1972; 5♂, 2♀ (40exs.), 10 X 1972; Ôkawa-rindo, 1♂, 12 IX 1972; Ôtaki, 1♀, 13 X 1972 (T. Watanabe leg.). Kurio, 1♀, 28—30 III 1971 (A. Seino leg.). Anbo, 2♀, 1 IV 1964 (Y. Shibata leg.). なお，( ) 内の数は三角紙の所検標本数である．

分布：日本（屋久島），中国南部，ボルネオ，モルツカ，スマトラ，ジャワなど．

検討した個体はインド，シッキム，タイなどから知られる *G. erotias* Meyrick にも似るが，より本種の形状に一致し，特に aedoeagus に突起を有するので本種として決定した．検討数から，屋久島では普通に分布している種と考える．

Sorolopha sphaerocopa (Meyrick) ハスオビヒメハマキ（新称）(Figs. 7, 8)

Argyroploce sphaerocopa Meyrick, 1929, Ann. Soc. Ent. France, 481.
Choganhia sphaerocopa; Razowski, 1960, Poliskie Pismo Ent., 30: 387 (♂-genitalia).
Sorolopha sphaerocopa; Diakonoff, 1973, Zool. Mon. Rijksm. Nat. Hist., 1: 86, figs. 124—125, 138 (♂♀-genitalia).

前翅長：6〜7 mm 頭部は淡い黄茶色で，軽くオリーブ色を加味する．触角は褐色．下唇鬚は淡いオリーブ色を加味した灰色で，中節の頂部と末節は濃い．また，中節の頂部は突出する鱗毛で拡大し，末節はその鱗毛につつまれ，わずかに突出する．胸部はオリーブ色を加味した褐色で，腹部は暗灰褐色である．雄の後脚脛節は毛を密生して太くなる．

前翅は青味がかった灰色で，緑色も加味する．斑紋はにぶい褐色で，個体によっては中帯より基方が暗褐色を呈することもあり，また，写真のように外縁紋を有する個体と欠く個体もある．後翅は灰味茶で，やや濃色の個体もある．縁毛はより淡く，橙黄色を加味する．雄は後縁にそっては灰色の，脈 1b 上には黒褐色の長毛をそれぞれ密生している．

交尾器：Uncus は小さく丸い．Socius は細長く，腕の先端に毛を有する．Valva の頸部は細く，特徴ある形状を呈する．Sacculus はよく発達し，先端に刺群を有する．Cucullus は中央で深くくぼみ突起を形成する．Valva の頸部からその先端にかけて刺群列を密生し，先端には2本の短かく太い刺を有する．Aedoeagus はむしろ長く，ゆるくカーブし，cornuti を欠く．Sterigma は繊毛を密生したジョウゴ型で，中央に深い割れ目がある．Colliculum は細長く，単純．1本の角状の signum がある．

所検標本：Yakushima Is.-Aiko-dake, 1♂, 5 VII 1972; Takabanyama, 2♂, 4♀, 8 X 1972; Ôkawa, 2♂, 12 IX 1972; Kurio, 1♂, 7 VIII 1972; 2♂, 9 X 1972 (T. Watanabe leg.); 1♂, 16 VIII 1973; 1♂, 22 VIII 1973 (A. Kawabe leg.).

分布：日本（屋久島），トンキン，モルッカ，スマトラ，ジャワ．

上述した特徴ある諸形態から識別は容易と考える．*Sorolopha* 属は *Eudemis* 属に近似するグループで，東南アジア地域から20余種が知られている．

Rhodacra pyrrhocrossa (Meyrick) シモフリヒメハマキ（新称）(Fig. 6)

Argyroploce pyrrhocrossa Meyrick, 1912, Journ. Bombay Nat. Hist. Soc., 21: 874.
Olethreutes pyrrhocrossa; Clarke, 1958, Meyrick Catalogue, 3: 543, pl. 27 figs. 1, 1a (♂-genitalia).
Rhodacra pyrrhocrossa; Diakonoff, 1973, Zool. Mon. Rijksm. Nat. Hist. 1: 286, figs. 432—434, 446, 450A—B (♂♀-genitalia).

前翅長：7 mm. 頭・胸部及び触角は暗褐色だが，鱗毛の先端は淡い黄土色を呈する．下唇鬚は淡黄土色で，下縁は暗褐色でふちどられる．腹部は黒褐色．雄の後脚脛節にはなめらかな長毛がある．

前翅は暗褐色であるが，淡い黄土色を密布し，特に後縁の中央部から外縁にかけて著しく，帯状をなす．後角部には黒紫褐色紋がある．翅頂部の縁毛は暗褐色で，中央より後角にかけては橙赤色を呈する．後翅は基方が淡く，外方は黒紫褐色．縁毛はより淡く，淡い橙黄色を加味する．雄の後縁は肥厚する．

交尾器：Uncus はT字形で，socius はむしろ小さく，gnathos は膜状である．Valva は細長く，中央でせまくなる．Sacculus は発達し，先端は突出する．その上縁の中央よりやや内方には短い刺群を有し，中央より先端にかけては長い刺毛列を密生する．また，先端部には3本の太い刺がある．Cucullus は長毛を有し，基方は丸く広いが，外方は細長く，やや鉤状となる．Aedoeagus は短い．Sterigma は網状で丸く広い．中央に ostium が開口する．Signa は魚鱗状で，大きな2条がある．

所検標本：Yakushima Is.—Takabanyama, 1♂, 8 X 1972; Miyanoura, 1♀, 10 X 1972; Kurio, 1♀, 291X 1972 (T. Watanabe leg.).

分布：日本（屋久島），台湾，アッサム．

Statherotoxys hedraea (Meyrick) シロモンアカヒメハマキ（新称）(Fig. 9)

Paltypeplus hedraea Meyrick, 1905, Journ. Bombay Nat. Hist. Soc., 16: 584.
Olethreutes hedraea; Clarke, 1958, Meyrick Catalogue, 3: 515, pl. 256 figs. 3, 3a, 3b (♂-gentialia).
Statherotoxys hedraea; Diakonoff, 1973, Zool. Mon. Rijksm. Nat. Hist., 1: 199, figs. 279A-B, 295 (♂♀-gentialia).

前翅長：6～7 mm. 頭・胸部，触角及び下唇鬚は赤褐色で，橙黄色の鱗毛を加味する．腹部は赤褐色，尾総は淡い橙黄色を呈する．前翅は赤褐色で，橙色を加味し，外縁は橙黄色を呈する．前縁には大きな白色紋を有する．後翅は暗褐色で，縁毛は淡く，橙黄色を加える．

交尾器：Uncus はむしろ長く，鎌状を呈する．Socius は小さいが，gnathos はよく発達し大きい．Valva は細長く，cucullus は発達し，特にその下縁にそって 3～4 本の太い刺を有する．Aedoeagus は太く短い．Sterigma はU字型で，ostium は広く開口する．Colliculum は細長く，歯形の signa がある．

所検標本：Yakushima Is.—Nagata, 2♂, 1♀, 15—16 VI 172; 2♂, 5 VIII 1972; 1♀, 12 VIII 1972; 2♂, 5—6 X 1972; Onoaida, 1♂, 9 VIII 1972; 1♀, 7×1972 (T. Watanabe leg.).

分布：日本（屋久島），アッサム，セイロン．

上記の論文により決定したが，特徴ある白色の前縁紋などから，既知種とは容易に識別されると考える．

Summary

In this paper 8 species of the subfamily Olethreutinae are newly added to the Tortricid fauna of Japan, and *Acroclita symbolias* Meyrick is newly treated as the species of the genus *Rhopobota*.

Most of the examined material were collected on the island of Yakushima (30°13′24″—28′N. 130°22′48″—40′20″E.) by Mr. Toku Watanabe, to whom I should like to express here my thanks.